

《2005年10月例会報告》

【日 時】2005年10月13日（木）19：00～21：00（その後「なかい」～0：30頃）

【会 場】筑波大学附属高校1F体育科準備室

【テーマ】「サロン2002 公開シンポジウム2005—クラマーさんありがとう！」検討会

【参加者（会員）】鈴木崇正（NECクリエイティブ） 中塚義実（筑波大学附属高校） 本多克己（株）クラブハウス）

【参加者（未会員）】山田智子（株）クラブハウス）

【2次会からの参加者】堀美和子 両角晶仁

【報告書作成者】中塚義実

注）参加者は、所属や肩書きを離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

サロン2002 公開シンポジウム2005—クラマーさんありがとう！

検討会

I. サロン2002 公開シンポジウムのこれまで（中塚義実）

サロンでは年1回、「公開シンポジウム」を行うとともに、「報告書」を作成している。本年度からは、全ての会員に報告書が行き届くようにしている。

過去のシンポジウムの概要は、末尾に示したとおり。

内容的には毎回非常に面白いのだが、参加者が少なく、もったいない。内容の充実とともに、広報活動、告知の充実を図ることが大切との意見がMLにもあった。また総会時には、「参加費をどうするか」という課題も出ていた。

こうした運営面での課題を克服するには時期的に非常に厳しいものがあるが、とにかく今日の段階でほぼ内容的にも、また誰が壇上に立って、誰が進行役に回るかといった人選も含めてほぼ確定したい。

II. 今回のシンポジウムの位置づけ（本多克己）

「日本におけるドイツ年」の参加行事である、「日独サッカー交流展」の一つに位置づけられている。

「日独サッカー交流展」の概要は次のとおり。

主 催：ドイツ文化センター（ゲーテインスティトゥート）
協 力：在日ドイツ商工会議所、ドイツ観光局
後 援：ドイツ連邦共和国大使館、大阪神戸連邦共和国総領事館、ドイツ外務省、
（財）日本サッカー協会、（社）日本プロサッカーリーグ、（財）日独協会、朝日新聞
企画・運営：㈱クラブハウス、㈱フォトキシモト
監 修：賀川浩
会場・日程：

- 東京 【展 示】新宿パークタワー・アトリウム 2005年11月10日(木)～29日(火)
【シンポジウム1】味の素スタジアム 2005年11月12日(土) 17:30～20:30
Jリーグ「東京V vs C大阪」試合後に開催
※主催として、「サロン2002」が参画
※デットマール・クラマー、賀川浩、ほかをパネリストとして予定
【シンポジウム2】新宿パークタワー・ホール 2005年11月13日(日) 13:00～15:15
※シンポジウム後、レセプションを開催予定
- 神戸 【シンポジウム3】神戸東急イン 2005年11月14日(月)
※主催として、「社団法人ユーハイム体育・スポーツ振興会」が参画
- 大阪 【展 示】梅田スカイビル 2005年12月15日(木)～25日(日)

なお、シンポジウム2と3は、「Jリーグ百年構想シンポジウム」と命名されており、おおむね次の
演者・内容となっている。

シンポジウム1 … 「組織寄り」の内容。クラブやリーグ運営を中心に

第1部：クラマー、賀川浩、岡野俊一郎

「日本サッカーの父クラマーと語るクラブ、リーグ」

第2部：Jリーグ関係者

「百年構想・現在、未来」

シンポジウム2 … 「指導現場寄り」の内容。育成・強化を中心に

クラマー、賀川浩、釜本邦茂

また、現時点で会場とのつめができていないが、この日時でできることを前提に話を進めていきたい。

Ⅲ. 本年度のシンポジウムについて（意見交換）

■基本的な考え方と名称

- ・まずはじめに、「クラマーさん、ありがとう！」ではないか。
- ・それがあって、「私たちはここまで来ましたよ」ということを報告して、アドバイスをいただくのがよいだろう
- ・サブタイトルとして、「クラマーチルドレンからの報告」とするのはどうだろう。また、こういうものには数字が入っているほうが良い。「クラマーの提言」が為されたのは1964年の秋。提言を受けて日本リーグが発足したのが翌1965年だから、ちょうど40年になる。クラマーさんも賀川さんも80歳。この数字をうまく使って、キャッチコピー化できないだろうか。

■シンポで取り上げる内容■

- ・サロンの「公開シンポジウム 2005」は、ここでいう「シンポジウム1」に位置づけられる。2と3ではできないような、サロンならではのものにしたい。
- ・「クラマーの提言」に対する「回答」は、本来的にはJFAが為すべきことであって、出し方を間違えうとややこしいことになるかも。しかしサロンならではの切り口もおもしろいだろう。
- ・クラマーさんの4つの提言を要約すると、1) 代表チームの強化、2) 日本リーグの発足（サッカーの生活化）、3) 指導者養成（人材育成）、4) 芝生のグラウンド（サッカー環境の整備）。このそれぞれについて、日本の現状と課題を報告してから、クラマーさんにアドバイスをいただきたい。
- ・おそらくクラマーさんはものすごくたくさん話してくれるだろう
- ・「提言」にとらわれなくて、聞きたいことをピックアップしてまとめるという方法もある。MLへの投稿をみると、「“精神論（国民性）”を上げてほしい」「“リーダーシップ論”について聞きたい」「“青少年の教育とスポーツ”がいいと思う」といった意見があった。ただこれらも、「提言」への「報告」の中で網羅することは可能
- ・クラマーさんそのものを紹介することも必要。今の若い世代の人たちの中には知らない人もいる。また、サッカー関係者以外には知られていない。本当は「日本スポーツ界の父」なのに。
- ・クラマーさんの紹介は、賀川浩さんにやっていただきたい → OK
- ・Jリーグ観戦のあとなので、話の取っ掛かりにも、試合の話を枕に持ってきてほしい。すると話題としては、「クラマーさんの提言を受けて、他のスポーツに先駆けて、サッカー界では日本リーグが発足し、今はJリーグがここまで育ってきました（クラマーさん、ありがとう！）。いま、ゲームをご覧になってどういった感想をお持ちですか？」というあたりが導入となるか。そこから育成の話に持っていくこともできるし、代表強化の話に行くこともできる。
- ・「クラマーさんは最高の教育者である」と言われる。「教育」の話題は今回のシンポジウムの大きな柱となるだろう。例えば、バイエルン・ミュンヘンの敏腕マネージャーであるウリ・ヘーネスは、あんなにサッカーが上手だった（西ドイツ代表として1974年大会優勝）のに加えて、引退してすぐに現職でバリバリやっていた（多少異なるかもしれない）。彼はいったいどこで、スポーツ・マネジメントの勉強をしていたのだろう。「セカンドキャリア」または「キャリア・トランジション」への教育はドイツではどうなっているのだろう。よい選手になるための、育成・強化の部分だけでなく、プレーヤーの教育のところもぜひクラマーさんにお聞きしたい。
- ・芝生のグラウンドについては、グラウンド整備の話というよりも、そのベースとなる資金面、国を挙げての取り組みのようなどころにも触れたい。

■シンポジウムの進行と登壇者■

- ・「ゲーテ・インスティトゥートからの挨拶」は入れた方がよいのではないかな。それから通常のサロンのシンポジウムの進行に入る
- ・今回は、登壇者の中で、ゲスト役とホスト役がいる。ゲストはもちろんクラマーさん。先にホスト役が全員座っているところに、ゲスト役をお迎えする形はどうか
- ・クラマーさんの紹介のときは、クラマーさんが座っている状態でいい。
- ・月例会100回記念パーティで流した「古い映像」を借りることもできる
- ・進行の大枠は次のとおり

1) クラマーさんの紹介

2) 東京V vs C大阪戦を中心に

3) テーマごとのディスカッション

①「提言」に対する日本の現状報告（サロンの視点を交えながら）

②クラマーさんからのコメント

③ディスカッション（基本的には登壇者相互で進めるが、場合によってはフロアーへも投げかける）

4) まとめ

- ・クラマーさんの話はあちこちに飛躍することが予想される。話の向いた先を的確に把握しつつ、コーディネーターが話題を方向付けることが大切。コーディネーター役は理事長か → OK
- ・芝のグラウンドなどの「環境整備」に関する報告と質問は、そのための背景のところが大切。ぜひ、totoプロデューサーの両角さんに登壇いただきたい → OK
- ・Jリーグに関することは山下則之さんに登壇いただきたいが → 海外出張のため不在
- ・代表チームのところは宇都宮徹壺さんに登壇いただきたいが → 海外出張のため不在
- ・宇都宮氏からは「鈴木崇正さんが適任では」という意見があった

→ この問いかけに対して、鈴木氏から、「サロンのメンバーの中で代表チームについて多くを知り、クラマーさんに問う資格がある人はたくさんいらっしゃると思います。私は日本代表に張り付いて見ているわけではありませんし、世界の代表チームの話しになったら、きっとドイツ代表の悪口を言ってしまうと思います。(^^;;

なので、私は「報告書」の制作に注力させていただくとして、どなたか適任者にお任せしたいのですが…」との返事があった（10月18日）。

→ この状況を受けて、改めて、大橋二郎氏に依頼した。日本フットボール学会会長の大橋氏は、日本サッカー協会科学研究委員会（当時）の委員として、Jリーグ発足以前から日本代表チームや日本リーグのゲーム分析に携わり、長期的なスパンで日本サッカーの変化を見続けてこられた方である。“研究”と“現場”の接点についてクラマーさんの意見を引き出す上でも、また日本フットボール学会のPRの意味でも、最適であると考えた。シンポジウムの全体イメージがつかみにくい段階で、超多忙な中、準備にどれだけ時間が割けるか不安はあるが、「やってみましょう」と引き受けてくださった（10月24日）。

- ・全体の進行役（司会）が必要。加納さんをお願いできないか
- ・女性が必要。加納さんには何らかの形で登場していただきたい。

→ 加納氏からは「総合司会？の件、了解致しました」との返事あり（10月19日）。

■今後の予定■

- ・時間がないが、とにかくスピーディに仕上げよう！
- ・続きは場所を変えて…

■補 足■

- ・事務局の本多氏と会場担当の多田寛氏が味の素スタジアム内会場にて打ち合わせを行い、細部の詰めを行った。それを受けて案内文完成。会員に発送。各会員による告知活動開始（10月27日）。

参考. サロン 2002 公開シンポジウム (2001～2004)

■ 2001年度 ■

<コンフェデレーションズカップ総括シンポジウム>

日 時：2001年7月22日（日）13：00～16：30

会 場：横浜市スポーツ医・科学センター大研修室

内容・演者：

運営側からみたコンフェデレーションズカップの成果と課題 長岡茂（JAWOC茨城支部）
ボランティアからみたコンフェデレーションズカップの成果と課題 竹原典子（横浜・茨城会場ボランティア）
市民団体からみたコンフェデレーションズカップの成果と課題 小島裕範（Alliance2002代表）
司会進行：中塚義実（サロン2002代表）

主 催：サロン2002

後 援：Alliance2002、NPO法人日本サポーターズ協会、ソシオ・フリエスタ

運 営：サロン2002ワールドカップ・プロジェクト I

参加費・参加者：1000円・85名

事務局長：笹原勉

<報告書『2002年とその先へのメッセージ～コンフェデ杯は私たちに何を残したか～』>

内 容：1) シンポジウム報告編

2) 特別寄稿編 … 小島裕範、浅野智嗣、数源一郎、片岡麻衣子、村坂有造、湯浅健二、
宇都宮徹彦

3) インタビュー編 … 鈴木徳昭さんにきく

ページ数：102ページ

発行部数：800部（2001年9月1日発行）

■ 2002年度 ■

<ワールドカップ総括シンポジウム（第1部）－「ささえる物語」を中心に>

日 時：2002年8月3日（土）13：30～17：00（13：00受付開始）

会 場：東京体育館第一研修室

内容・演者：

開催地からみたワールドカップ 長岡茂（JAWOC茨城支部）
キャンプ地からみたワールドカップ 宮城島清也（清水ナショナルトレーニングセンター）
ベニューコーディネーターからみたワールドカップ 村林裕（FC東京／宮城ベニューコーディネーター）
司会進行 中塚義実（サロン2002代表）

主 催：サロン2002

後 援：NPO法人日本サポーターズ協会

運 営：サロン2002ワールドカップ・プロジェクト II

参加費・参加者：1000円・54名

事務局長：加納樹里

<ワールドカップ総括シンポジウム（第2部）－「観戦と交流の物語」を中心に>

日 時：2002年8月10日（土）13：30～17：00（13：00受付開始）

会 場：神戸ファッション美術館4Fセミナー室

内容・演者

基調講演：ワールドカップ史からみた2002年大会	賀川浩（スポーツライター）
フットボールの母国からみた2002年大会	スー木下（英国大使館）
市民が伝えた2002年大会	橋本潤子（ライター／サポータープロジェクト2002）
メディアが伝えた2002年大会	宇都宮徹壺（（株）スポーツナビゲーション／写真家）
司会進行	中塚義実（サロン2002代表）

主 催：サロン2002

後 援：兵庫県サッカー協会、神戸ファッション美術館、NPO法人神戸アスリートタウンクラブ、英国大使館

運 営：サロン2002ワールドカップ・プロジェクトII

参加費・参加者：1000円・32名

事務局長：本多克己

<報告書『2002年FIFAワールドカップを振り返って～2002年以降に何を残すか～』>

内 容：1) シンポジウム報告編 … 東京会場、神戸会場
2) 特別寄稿編 … 江川純子、久保田淳、笹原勉、田中俊也、中塚義実、山田告人
3) インタビュー編 … 鈴木徳昭さんにきく

ページ数：108ページ

発行部数：400部（2002年12月10日発行）

■ 2003年度 ■

<サロン2002公開シンポジウム2003：2002年を越えて～地域で育てるこれからのスポーツ環境>

日 時：2003年8月2日（土）13：30～17：00（13：00受付開始）

会 場：東京体育館第一研修室

内容・演者

リーグ戦で育てる地域クラブー東京都ユースリーグの試み	中塚義実（サロン2002代表）
欧州の取材を通して見た地域社会と育成	宇都宮徹壺（写真家・ジャーナリスト）
Jリーグアカデミーのねらいとその活動	山下則之（Jリーグアカデミー・リーダー）
司会進行	鈴木崇正（NECメディアプロダクツ）

主 催：サロン2002

運 営：サロン2002公開シンポジウム実行委員会

参加費・参加者：1000円・30名

事務局長：上間匠

<報告書『2002年を越えて～地域で育てるこれからのスポーツ環境～』>

内 容：1) シンポジウム報告編
2) 特別寄稿編 … 原田和子、宮城島清也、本多克己、榊原孝彦、宮明透

ページ数：52ページ

発行部数：400部（2004年2月23日発行）

■ 2004年度 ■

<サロン2002「公開シンポジウム2004」 t o t o を活かそうー地域スポーツ振興のためにー>

日 時：2004年11月27日（土） 13：30～17：00（受付13：00～）

会 場：立教大学5号館5224教室（JR山手線池袋駅西口下車徒歩10分）

内容・演者

ポルベニル（未来）を描くー奈良県のNPOの試みから

福西達男(NPO法人ポルベニルカシハラスポーツクラブ理事長)

大学と地域の連携ー岐阜県のNPOの試みから

高橋正紀（NPO法人スティックルバックスポーツクラブ副理事長／岐阜経済大学助教授）

草の根スポーツのビジネス化

徳田 仁（株式会社セリエ代表取締役）

t o t o のこれまでとこれからー地域スポーツ振興のために

両角晶仁（日本スポーツ振興センタースポーツ振興事業部推進役）

コーディネーター

中塚義実（サロン2002理事長／筑波大学附属高校教諭）

主 催：サロン2002

運 営：サロン2002公開シンポジウム実行委員会

参加費・参加者：1000円・27名

事務局長：麻生征宏

<報告書『t o t o を活かそう！』>

内 容：1) シンポジウム

2) 特別寄稿 … 浅野智嗣 茅野英一 高橋義雄 麻生征宏

3) サロン2002のあゆみ

ページ数：126ページ

発行部数：400部（2005年3月31日発行）